

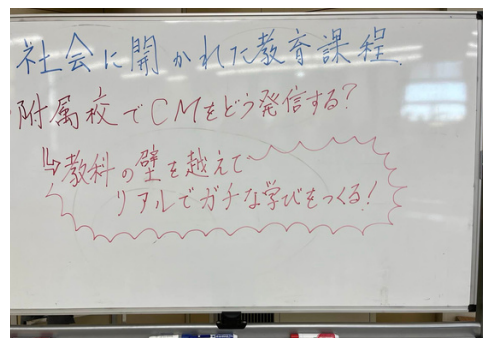
「教育課程論」通信

vol. 7

2コマの流れと記録

福岡県より飯塚市教育委員会の柴田康弘先生をゲストにお招きし、福岡教育大学小倉中学校でのリアルガチのカリキュラム実践の話聞くことができました。飯塚市の宣伝から具体的なカリマネ実践まで盛りだくさんでした。教師として中学生と対峙するときには、彼らにとって切実なものなのかどうかを常に念頭に課題を設定したり、カリキュラムを考えていくということが一貫しておられました。なので、ラジオ体操に変わる北九州市の新しい体操を考案したり、ふるさと納税のウリを押し出したり、洗濯グランプリを開催したりと様々な活動に取り組みつつも、実際に市役所の職員に協力をお願いしたり、生徒が企業から得る評価は最良のないリアルガチな評価としてもらうなど、真正な学びを創っていかうとしていた姿勢が印象的です。

そうはいつても、ここまでの取り組みをみて「附属だからできるでしょ」という声をあげられる方も多いと思います。また、小学校だとうなるの?という疑問もあります。これらに対して学生同士で議論をしました。すると、柴田先生も唸るほどの核心をついたような意見が集まりました(以下に掲載)。SDGsをテーマに総合をやっていたときは各教科の先生と連携(授業交代のとき板書を残して次時の先生に簡単に授業共有するなど)をして各教科でSDGsに取り組むなど、教科ごとの横断的総合的カリマネをしていたみたいでした。このような公立学校でも十分できるような視点は我々の貴重な学びとして書き留めておきたいと思います。



附属小倉中学校のカリキュラム実践から考える

【カリキュラム・マネジメントの手引き】
drive.google.com/file/d/1xm0XIPJoTfXrk89JpHkq0kH8SU38HDir/view

①「附属だからできるでしょ」

公立学校だとできるの?に対する意見

- ・「行政や市役所へ」の段階まではいなくとも、学校内にとどめてSDGs等の企画提言会はできそう
- ・公立校同士で連携して取り組む
- ・地元地域との繋がりをもった取り組みは実践できる

- ・授業進度に余裕を持たせる
- ・附属の研究の場を公立に委任する→成果が出たら公立でも積極的に実践
- ・部活等教師の負担を減らす
- ・公立ならではの地域との関係、多様性

附属と全く同じことをするのは難しいが、公立だからこそできること(地域密着などに着目して活動を組む。地域との連携を強める。大学の先生もつちよい公立に興味持って

公立だと自由度も低く、児童の学力差や保護者の理解も付属より得づらいと思うので、付属のようにはできないとおもう。

「教育課程論」通信 メッセージ箱



編集後記

教育課程論、大変おつかれさまでした。

必修の教職科目なので、160人を超える様々な所属の人が集まる講義でしたが、出身地が異なるなど多様なバックグラウンドをもった人たちのコミュニティからこそ創れる学びを、みんな自身で創っていったのが本当に素敵だなと思いました。グループやペアでなにかひとつの成果をまとめるワークに限らず、意見を交流し自身の考えや視点を広げ、深めることで、カリキュラムを捉える眼を養ってきました。それと、教育課程、カリキュラムを大きく捉え、各教科や学級、他の先生や地域との連携でできることを考え、望ましい方向性を見据えたうえで、目の前の多様な子どもたちの学びを創れるような具体的な手立て・アイデアは私自身も勉強になりました!ありがとうございました!

最後に、全7回に及ぶ通信へのメッセージ、講評をおまちしております^^

【制作・編集 馬越夕椰(教育課程論TA)】

②タイプA-Dの学校で「真正な学び」や

「総合的な学び」や「探究的学び」を考えてみる

- ・大人が中心ではなく、子供たちが主体的にPTA活動を進める。
- ・子供から大人への働きかけを増やす
- ・子供が先生(学校や塾)の先生となつて実際に授業を行う
- ・タイプA内の学校間、また、タイプ別の学校とともに連携を図つて一緒に授業や行事をする

タイプが3つあったため、それぞれ紹介します。

- 1) 地域で問題を実感、取り組み例(ごみの一生を学ぶ・町の中のゴミ箱の装飾をする)
- 2) 「世界がもし100人の村だったら」を読み(国語)、それがどの国に該当するか調べ(社会)、自分達にどのようなことができるか話し合う(特活)
- 3) 火のつき方を理科で学んだ後に、家庭科で料理の際に強火や弱火を学び、社会で火災について学ぶ。(もともとはある指導事項をつなげる)

海外に手紙を出してみる(外国語・国語)
雑巾掛けだけ負担が大きいため改善したい(家庭・道徳・図工)
フリーマーケットを開催してみる(算数・社会・外国語)

小学校のような複数の教科を担当する先生なんかは具体的な教科のことを想定して考えるのも大切だね!



南浦先生の今日のひとこと

あっという間に終わった(かもしれない)教育課程論でした。カリキュラムをどう捉え、同自分事としていくかは実は授業より大事だったりもします。ひとりてがんばるのではなく、チームで、学校全体で人を育てていく目線、これからもぜひ、大事にしてください。